

デジタル変革時代の ICT グローバル戦略懇談会 報告書案への意見概要

2019年5月22日

遠藤信博

- グローバル戦略検討および報告書案のとりまとめに感謝致します。
 - 基本的な内容は、報告書（案）通りと認識しております。
 - G20 のみならず、その後に向けた検討の視点として、いくつか意見を述べさせていただきます。
1. ICT で基本的な機能となる、リアルタイム性、ダイナミック性及びリモート性を考えたときに、これらを最大限活用できるようにするには、グローバルで標準化やインターフェースの統一が進むことが必要であり、それがグローバル化の本質であると考えております。また、データの共有性やアクセシビリティという課題共有に向けたプロセスにおいて、日本がイニシアティブをとりながら進めていくことが、グローバル戦略に結びついていくことになると思います。
 2. デジタル化と SDGs を考えた場合、AI 等を含めたデジタル化の最大利点は、全体最適解を作るということでもあります。データを収集するエリアや、データの活用領域を限定してしまうと、精度が不十分で、限定されたところでの最適化に留まってしまうと考えます。例えば、がんなどの病気にしても、日本だけでやろうとしても、がんの様々な症例に十分対応できるものにならない恐れがあります。幅広いデータの共有性こそが、人間社会のサステナビリティにつながっていくと考えております。
 3. また、産業の底辺を支える中小企業においてデータへのアクセシビリティが制限されていると、価値創造の大きな機会損失になると感じており、これを解決することが SDGs に繋がるものと思います。具体的にどのようなプラットフォームをつくれば、加速できるのかという観点でも、議論していく必要があると考えております。
 4. 一番大切なことはスピードだと思っておりますが、一方では、日本単独でやるとガラパゴスになってしまう恐れもあります。グローバルなデータの共通性も含めて、これらは、G20 の議論の内容になっていくと考えております。

以上